

# おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

## プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）  
東京で大学・研究室生活を経てUターン  
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビューの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる  
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）  
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）  
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

## 「言い間違い・聞き間違い防止法」

過日のことです。ある人が電話で「十日」（トオカ）と言ったつもりが、受けた相手に「八日」（ヨウカ）と伝わったため、事がオオゴトに発展したことがあったといえます。

電話が遠くて聞きとりにくかったのか、発音が悪かったのかはわかりませんが、「人前であっばん口開けて滑舌明瞭に話すのは見場わーりて」とばかりに品よく、しおらしく、ぼそぼそ話す県民はとくに電話口では気をつける必要があると思います。

確かに「トーカ」と「ヨーカ」は「t o k a」「y o k a」で、電話を通すと紛らわしく聞こえる日にちです。ビジネスマナー研修の達人は、「電話応対研修では、数や日にちの伝達をキッチリとします！とくに八日と十日の発音は一層の留意が必要です！」とキッパリ宣言します。二日と二十日、四日と八日、十一日と十七日も注意が必要です。

普段、早口気味の私は、「八日はヨーカ、ハチニチ！十日はトーカ、ジュウニチ！」とはっきりとしつこく発音するように心がけていたつもりですが、こりゃ他人ごとではありません。数や日にちの伝達は十二分に気をつけねばなりません、と思ったついでにイイことを思いつきました。ナレーターのようにくっきりはっきり、大きな声で話すことがしょうしな県民のあなた、今さら「アエイウエオアオ…」の発声練習なんて・・・と、うつむくあなた、この手がありました！それは、「新潟版 数の伝達法」です。これなら県民として恥ずかしくありません。はっきり大きな声で言えばわが県のPRにもなります。「十日のジュウは、テン！十人のインディアン ジュウ！ワン リトル、トゥ リトル、スリー リトル インディアン…」と英語で歌わなくても済みます。

なにかと問題を引き起こす「十日」なら、最初か

ら「トオカ、十日町のジュウ、雪まつり、着物とそばで有名な十日町のトオカのジュウニチ！」と宣言すれば、相手の記憶に深く残り間違いも忘却も防止できることでしょう。

あなたの不明瞭な発音で、電話の相手が「八日（ヨウカ）ですか？」と聞き返してきたら「八海山のハチの八日（ヨウカ）ではなく、十日町の方のトオカです！」と、ついでに十日町小唄の一節でも歌えば、あなたの知恵と愛郷心に相手も感服すること間違いなし。笑いを誘い、相手との心的距離も縮まります。十日のジュウは「十全ナスのジュウ」と郷土の味覚で勝負してもよいでしょう。相手が新潟市内に詳しい人なら「古町十字路のジュウ！」、見附の人なら「今町十字路のジュウ」がおすすです。ご当地の地名「〇〇町十番町のジュウ」も効果的ですが、「なにね、その町そんげいっぺこと番地あったかね？」と言われかねないので留意する必要があります。

これまた紛らわしい「四日」（ヨッカ）と「八日」（ヨウカ）なら、「新津四ツ角のヨン」「沼垂四ツ角のヨン」「四ツ屋町のヨン」「八日は八珍柿のハチ！」とローカルで味な話題を提供して盛り上がってみましょう。

そうです、物は言いやう伝えよう、数字や日時のように間違えて伝達したらオオゴトどころか信用失墜、取り返しのつかないことにもなりかねない件は、慎重かつ明確に伝達して確認する必要があるのは言うまでもありません。と同時に、相手と共通項のあることば（地域のことば、モノ）を介しての伝達も効果的で印象に残りやすいと思いました。

